

なにわ たいむず

No.105

contents

01 news / 管理者うるじまのヨモヤマハナシ

02 お母さんの日々あれこれ

03 プラマシダ / アトリエナニワ

04 Case Book

06 シムインこいけのなんでも日記
サポータークラブ

07 スタッフ紹介

お楽しみの創立記念食

12月1日はライフサポートなわの創立記念日、毎年楽しみにしている記念食が振舞われました！

今年のメニューは

- ・うな丼
- ・天ぷら盛り合わせ
- ・お刺身盛り合わせ
- ・フルーツの生ハム添え
- ・松茸のお吸い物
- ・水仙花練り切り
- ・ケーキ

と、デザートが和洋二種類もある、盛沢山の内容でした！

毎年恒例の行事となっているのですが、利用者の皆さんは本当に楽しみにしてくださっているようです。外食に行くのが難しい中、コース料理のような献立、皆さんに満足して頂けたのではないかと思います！（小池）



NEWS

続、お楽しみ企画

やっています！

2月に出る広報誌にクリスマスツリーが映っているのもあれですが、12月25日にお楽しみ企画として、「クリスマスドーナツを食べよう！」を開きました。なかなか外出が難しい状況が続く中、少しでも利用者の方々に生活の楽しみを届けたいという思いで企画しています。このお楽しみ企画の費用は、なにわの里と歩む会からのご寄付を充てさせて頂いております。心から御礼申し上げます。

グループホームでは、年越しピザ大会を企画して、みんなで楽しめました。その様子をラインでご家族にお送りしたところ、とても喜んで頂きました。今やる範囲でやれることを地道に行っている支援現場があつて、応援して下さい。方々がいる、それはとてもありがたいことだと改めて感じました。（小池）



管理者の暮らし

コロナ禍が続きます

このコーナーを主に担当するようになってから新型コロナウイルスの話題ばかりで、いい加減うんざりされるだろうと思うのですが、今回も触れずにはおれない情勢となりました。少しお付き合いください。

年が明ければ『第6波』が来るとさきさん言われてきましたが、予想通り変異株（オミクロン株）の脅威にさらされる状況となりました。感染が収まる見通しは立たず、感染者・濃厚接触者が増えることで、エッセンシャルワーカーの離脱による社会機能のマヒも現実となっています。弊社人も1月にアルバイトスタッフ1名に陽性者が出て、数日間個人防護服を着用して対応しました（幸いにもそれ以上広がらずに済みました）。オミクロン株は重症化率が低いと言われていても、障害者支援施設内で一度感染が広がれば、負担は変わりません。緊張した時期が続きます。

その中でも朗報が一つ。主に施設入所利用者として羽曳野市に住所がある利用者、さらに一部のスタッフが対象になりますが、羽曳野市が前倒しのワクチン3回目の接種の準備を進めています。なんと2月中旬には実施できそうです。利用者さんを守る手立てが打てることは喜ばしく、安心します。もうしばらくはこつこつとを繰り返すことになることをあらためて肝に銘じ、我慢の日々を過ごしていきたいと思えます。

話は変わりますが、『THE SEIUN』という本をご存じの方も多いいと思います。最近『THE SEIUN』が翻訳されましたが、人生100年時代をどう生きるかについて様々な提言がなされています。そんな内容に感化され、半年ほど前から健康を意識してランニングを本格的に始めました。初めは2〜3キロ走るだけで膝や股関節が痛かったのですが、徐々に距離を延ばすことで、月に160キロ（5キロ/日以上）走れるようになりました。40代半ばにして体力が向上する感覚は、思った以上に爽快です！コロナ禍での生活でも楽しみを見つけていけたらと思います。（すいません、誰かに言いたかったです…）

ヨモヤマバナシ



やわらかいクリームパンみたいな手が好き！

妹の好きなところは、たくさんあります。一番は柔らかくて、可愛らしいクリームパンみたいな手です。普段は手を繋ぐのは嫌がるのですが、段差を上り下りしたり、不安な時は自分から手を差し出してくれます。そんな時にこちらが手を握ると、もちもちですべすべな手を感じられて、可愛いと感じます。

それから、ちょっとツンデレなところもあり、普段はそっけないですが、急に本人からハグしてきた時はキュンとしてしまいます。

また、家では本人の好きな本、テレビ、スマートフォンをすべて出してきた、同時に見ようとするところは欲張りだな～と思います。

新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いたら、帰宅したり、一緒に銭湯にお出かけに行きたいなと思います。

by M

〔担当者コメント欄〕

Kさんの手はすべすべで私もうらやましいなと思っていました。たくさんのチャームポイントを挙げていただいて、とてもお姉さんたちに愛されているなと感じました。コロナが落ち着いたら、たくさん一緒に外出されてくださいね。(前崎)

お子さんの魅力を聞くことでお母様からの愛を感じました♡自分の親に聞いたら、私のチャームポイントは何て言ってくれるかな～(森本)

今回のテーマ

教えて、チャームポイント！
輝け！みんなの魅力★



お母さんが日々感じていることを
ちょっとだけ垣間見るコーナーです



毒博士長男、いつもニコニコ次男

うちの長男は毒博士。家には様々な凶鑑があり、中でも危険生物がお気に入り。特に毒を持つ生物は、毒の名前や特性まで覚えているようです。沖縄でよく食べられる『イラブチャー』がTVで紹介されると「イラブチャーはアオブダイって言われるけど、それはパルトキシン毒があって食べると内臓などが機能しなくなる。だから本当はナンヨウブダイやねん」と教えてくれます。そんな長男の将来の夢は「ロボットクリエイターになりたい」だそうです。

次男はいつもニコニコ、穏やかな性格です。しかし、家では思い通りにならないと地団駄を踏んで泣きながら怒ります。ある朝、準備が間に合わないと泣いてパニックに。泣きながら用意し、何とか間に合わせ一歩外に出るとケロリとお友達に挨拶する姿。さっきまで泣いていたのに…。その切り替えの早さにはいつも感心です。これからも外でニコニコしていただけるよう、家では好きなだけ地団駄を踏ませてあげたいです。

by I



理事長マエダが、ブラブラするコーナーです



「同級生施設同士で助け合
っていきましょう！」の巻

はじめりました「ブラマエダ」。今回は、四条畷市にある「障害者支援施設なわて更生園」の上原施設長をブラブラと訪ねました。

マエダ 「こんにちは。同級生の施設。同級生の2人ということで、いつもお世話になっております。またクラスター発生時は毎日、応援に来ていただき、本当に感謝しかありませんでした」

上原さん「いえいえ、お互いさまです。こちらこそいつも色々ありがとうございます」

マエダ 「あらためてになりますがお互い三十二年目の施設。五〇歳の課題って、どうですか？」

上原さん「まずは何といても『人』。次に『施設の建替え』等のハード面の課題も山積みです。時代の変化に合わせて、今までのやり方にとらわれずに、スピーディに変化し続けていかないとイケませんが、まだまだ追いつかないことが多いですね(汗)」

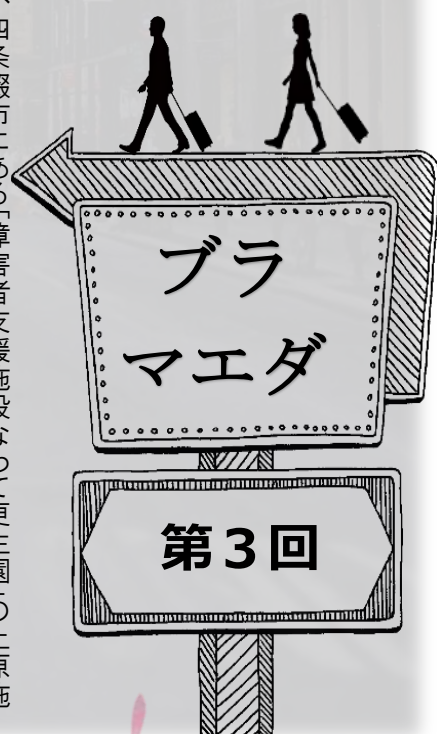
マエダ 「例えばどんなところでしょうか」

上原さん「これまでの画一的な雇用体系やターゲットにこだわってれば人は集まりません。より柔軟に、より幅広く人が集まる輪を拡げ、共に育っていくという発想がないと持たないんではないですね。また施設の老朽化も進んでいます。これまでのように国の補助金だけを頼りにではなく、地域の人々・組織と連携しながら地域にとって必要な場を創造していくことに迫られていると思います。人も組織も、待つだけでは衰退していくだけでしょう」

マエダ 「なるほど。最後になにわの里への期待等あれば」

上原さん「以前、実習でお世話になったスタッフも、とても勉強になったと言っております。今後も色々な学ばせていただきつつ、それぞれで弱点を補い合い、ストロングポイントを分け合っていけるような関係を維持・発展していければと思います」

今回も三時間分の超コンパクト版です。時代は変われど、大切な原点を忘れない上原さんでした。



アトリエナニワ

なにわの里で使用している自立課題や支援ツールを紹介するコーナー

【ツールの説明】

今回は支援ツールの紹介ではないですが、家事活動の洗濯たたみをするための支援です。



【ツールのメリット】

洗濯たたみの流れ作業を「左→右」に固定しています。活動のときに毎回同じ「左→右」の手順で洗濯たたみができるようにすることで、利用者さんも安定して活動できています。入浴で使用するタオル類を畳んでくれています。Aさんいつもありがとうございます！



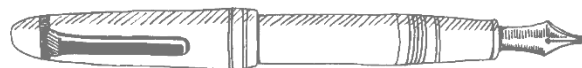
(新谷)

atelier naniwa



なにわの里 支援の実践紹介

book



自信を深める為の支援～ローマ字の学習～

児童支援係 高木清輝



【Aさんの紹介】

Aさんは現在地域の小学校に通う5年生（診断名：ASD）で、きつずサポートには2016年6月から通われています。ゲームやレゴで遊んだり、友達や支援員とも関わる事を好む方です。

【ローマ字の学習をすることになった経緯】

2020年8月頃までは、きつずサポートで行う活動にAさんが学校で苦手としている学習、算数の文章問題を解くことや特殊音節（例えば、促音「小さいっ」の含まれる単語『すっきり』など、拗音「小さいゃ・ゅ・ょ」が含まれる単語『きょう』など）を間違わずに書くこと（注：間違わずに読むことはできていました）などを多く取り入れていました。

しかし、2020年度から学校が転校になったこともあり、新たな環境に適応しようと頑張りすぎているような印象を受けることがありました。また「俺は～するのが苦手だから」とよく言ったりするように、自分の苦手なところに着目しがちでした。そこで、Aさんに少しでも自分の得意なところに目を向けて、自分を肯定できるようになってもらいたいと考えました。Aさんの得意なところについて、真っ先に思い浮かんだのが『英語』でした。以前からAさん本人やお母さんより、幼少期から英語の塾に通っていて、塾の英会話のテストでうまく話せたことや英検を受験したことをよく聞いていたからです。小学4年生から学校でも英語の授業が始まったこともあり、英語に対する自信が深まると、学校でも少し肩の力を抜けるのではないかと考えました。

そこで、お母さんに「自分に自信を持ってもらいたいので、英語に関する活動を取り入れたい」と相談しました。その際、お母さんから「英語は話すのも聞くのも得意だが、綴りは得意ではない。学校でローマ字を習っているが、ローマ字の綴りがよく分かっていないので、書くのも読むのも得意ではない。それができたら、本人の自信に繋がるのではないか」という話がありました。ローマ字が書けるようになることで、この先英語を書くことが今よりも容易になるかも知れないと考え、ローマ字の学習を始めました。

【現在の理解力の確認】

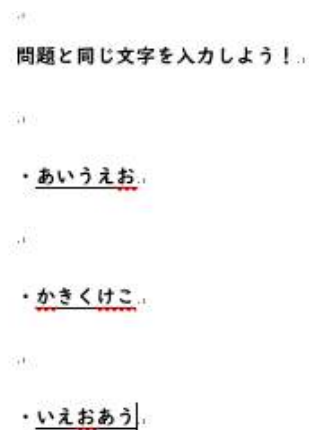
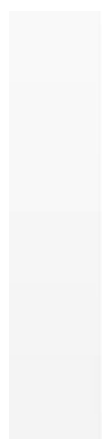
まず、現在のローマ字に対する理解力を知るために、2020年9月24日に『英語を無料で学べる 英語ブロック』の『ローマ字の練習プリント1』というホームページ（参照：<https://eigoblock.net/romajipractice1/>）で、ローマ字の単語をどれだけ読めるかを確認するところから始めました。その結果、単語が読めないと分かりました。この時は、Aさん自身も「ローマ字覚えられへん」と話しました。（①参照）

【50音順にローマ字を学習する（ア行～ワ行）】

9月24日以降、毎回の療育で、ローマ字の50音表を見ながら、ア行から順にどのアルファベットでその音になるかを覚えました。例えば、10月8日はア行とカ行、10月22日はサ行とタ行を練習するというように覚えていきました。その後、パソコンでローマ字をタイピングして、覚えた事を定着させる練習を行いました。（②参照）



①ローマ字単語の読み問題

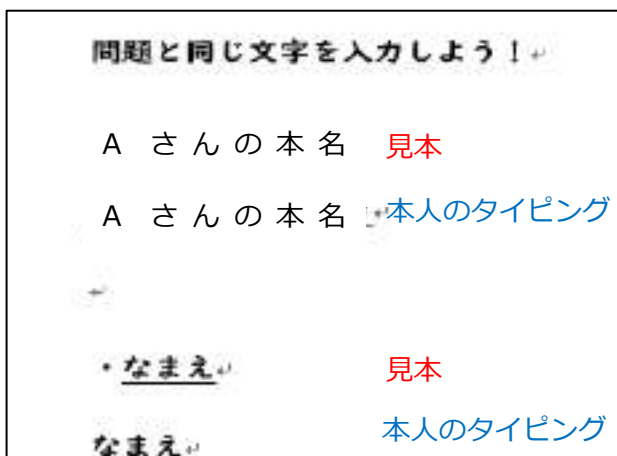


②ひらがなをローマ字でタイピング

こうして順にワ行まで進めていく中で、「アカサタナハマヤラワ」の各文字は<a>、「イキシチニヒミリ」の各文字は<i>で終わるなど、母音のアルファベットを覚えた様子が伺えました。またカ行からワ行までの子音（例：カ行は<k>）も徐々に覚えてきているようでした。

【ローマ字単語のタイピング】

それぞれの文字を綴れるようになってきたため、次は単語の学習を行いました。身近な単語で練習をしました。



③ローマ字単語のタイピング
(自分の名前や身近な単語をタイピングする練習)

単語のタイピング練習を始めた以降は、ほとんど見本の通りに入力することができるようになりました。

【その後の経過とまとめ】

元々はAさんが自信を持っていることについて支援を行う予定でしたが、結果的に苦手なローマ字の綴りを学習することになりました。ただ、Aさん自身が元々英語に興味を持っていたことやパソコンのタイピングに対して興味を持っていたことは、以前行っていたような単純にAさんが苦手な好きではない課題をするのと意欲が違うと考えて、この支援を実施しました。実際に最初はローマ字を読むことが難しかったAさんが、現在は単語のローマ字のタイピングならほとんど自分だけでできるようになりました。そしてAさんは「ローマ字に自信が出てきた」と笑顔で話してくれました。

2021年12月現在でも完璧にタイピングできるようになった訳ではなく、促音の『っ』などは練習をしてもなかなかスムーズにタイピングするのは難しいままです。冒頭で記した通り、促音をひらがなで書くのが苦手であることが影響しているかもしれません。ただし、ひらがなの促音を書くのではなく、ローマ字の促音をタイピングすることは、まだAさんにとってハードルは低い可能性があります（12月現在で、促音のタイピングの練習を行ったのは2回でした）。今後は、『っ』以外にも拗音の『ゃ・ゅ・ょ』などをタイピングできるようになることで、よりAさんの自信が深まれば良いと思っています。

ジムインこいけのなんでも日記

幸せのフェラムネ

娘二人が「東京リベンジャーズ」というマンガにハマっておりまして、先日そのマンガのシール付きグミが発売になりました。駅前のスーパー、コンビニ、駄菓子屋をハシゴしたのですが、一つも見つからず、リベンジならず、という結果に終わりました。最後の駄菓子屋で敗北感に打ちひしがれていると、「フェラムネ」が目に入りました。

コロナ禍の混乱の中で終わってしまったのですが、以前ライフサポートなにわの通所施設で請け負っていた受注作業で、「フェラムネのおまけを箱に詰める」という作業がありました。しばらく経って、「自分たちのお仕事がどんなふうになら社会に役立っているか、見に行こう!」という企画をスタッフを立ててくれました。駄菓子屋さんに実際に並んでいるフェラムネを見て、「これ、わたしが箱に詰めたやつや!」ととっても嬉しそうにされていたそうです。

幸せとは・・・なんて言うつもりはないのですが(それが何なのか、自分が教えてほしいです)、「周りの人の役に立っている」と思えることはとても大切なことなんだろうな、と思います。商品として並んでいるフェラムネを見て、言葉が話せない利用者さんも「あれ、オレがやったんだぜ」と胸のあたりを膨らませながら思っておられたのではないかと思います。

自分自身、ここ数年「人の役に立っている」という実感をなかなか持てない期間がありました。今も悩むことはたくさんあるのですが、そんな自分とも真正面から向き合って話をして下さる仲間がいます。そのありがたさを感じながら、粘り強く、自分らしくやっていたら、いつか日常のさりげないところにある「自分にとってのフェラムネ」が見えてくるんだろうなと思いつつ毎日です。

なにわの里サポータークラブに資金又は物品・労力などでご支援をいただいた方々

2021年10月1日~12月31日

(敬称略・順不同)

(法人の部)

松井鐵工株式会社 アトリエらくだ なにわの里と歩む会

(個人の部)

四方 世津子	湯浅 美奈子	廣橋 庄子	松村 高志	小島 純子	森 克雄	渡邊 信邦
安井 喜誉嗣	合田 裕章	山下 孝子	本部 文雄	綿貫 武則	湯里 一夫	車谷 二三夫
太田 稔	井谷 有希子	井堂 光	小畑 拡嗣	金田 珠江	亀井 幸子	河田 八州子
神田 泰寛	北森 美英子	車谷 清里	小島 俊郎	坂本 美弥	佐藤 太志	高岸 恭子
多田 たから	千原 昭二	寺田 誠一	時野 浩司	中島 恭子	中谷 弘子	中田 美津子
中田 有香	西田 敏之	濱田 由紀子	馬場 勝巳	藤原 緑	松尾 保隆	松田 由紀
松原 史敏	道本 佳憲	光田 英弘	宮崎 正己	森 央樹	油利 彰博	赤松 福枝
井形 正信	井田 博	井上 篤	井上 政二	生駒 ひとみ	佐々木 雅美	田中 賢一
坪田 裕子	中川 龍樹	長橋 徹也	延田 輝	三好 智行	村松 克己	保田 千里
山本 二三子	北浦 康司	杉本 武志	徳原 大輝	中谷 亜希	三木 由貴男	湯浅 珠樹

STAFF INTERVIEW

なにわの里スタッフの紹介コーナーです。インタビュー形式で、スタッフの声をお届けします！



梅林 直生

(児童・相談支援課 課長)

— 梅林さんが障害児・者支援の道に進もう、またなにわの里で働こうと思ったきっかけは何ですか？

一言で言うと、母に「福祉の道はどう？」と言われたから、ですね。高校までは剣道一筋でした。夏のインターハイが終わって、仲間の中にはスポーツ推薦で進路を考える人もいたのですが、自分はもうやりきったという思いがあったので、剣道以外の道・・・と考えていたところに母の一言があったという感じです。

福祉系の大学に入って、2 回生のころに知的障害のある方の入所施設で 3 週間の実習をさせて頂きました。そして、3 回生の時になにわの里で 1 カ月の実習となったのですが、2 回生のときにいった施設とは何か違う、それはポジティブなものだけではなくネガティブな気持ちも感じながら、でした。

例えば、写真カードでその方の予定を示したスケジュールを見て、「必要なものなのかもしれないけど、その方をコントロールしているような感じがする」といった気持ちがありました。そんな自分にとって大きかったのは、そんな自分の悩みや思いに対して、職員さん、今の先輩方が真正面から向き合ってくれたことでした。「こういう意図でこの支援を行っている」ということを実習ノートにびっしり書いてくれたり、一生懸命話をしてくれる姿を見て、ここで自分も働きたいな、と思うようになりました。今でもたまにそのときの实習ノートを見返すことがあります。その時先輩方がしてくれたのは「通訳」の役割だと思んです。何も知らなかった自分と、利用者さんとの間にあるものを一生懸命に伝えようとしてくれた、それが自分にとっては大きなことでした。

— 今は「きッズサポートなにわ」「なにわの里 地域相談・連携室」の課長として働いています。自分も療育の様子を近くで見ることがありますが、それぞれのスタッフが子どもと真正面から向き合っている、また卒業するまで寄り添い続けるという姿勢はすごいと感じます。卒業した後もなにわの里の成人支援サービスを使ったださる方もおられて、それまでの支援を継続して行えるというのもなにわの里の支援の特徴の一つです。また、自分はたとえ 18 歳で卒業となっても、自分に向き合ってくれる大人がいる、そこにいけば自分らしくいられる、そんな場がきッズサポートなのだと思いますし、それはすごいことだと感じます。

そうですね、18歳を迎えてその後なにわの里の成人支援サービスを使ってもらえるのもとてもありがたいですし、そこで卒業となっても、それは「なにわの里でなくてもやっていけるんだ」という自信や力をその子やご家族が感じてくださったから、と自分は考えています。長く過ごしたその場所でなくても、新たな場所でもやっていけると思えるのは、その人に自信や力のようなものがあるからだと思んです。それをきッズサポートでの支援を通して、子どもやご家族と一緒に積み上げてきたんだ、と自分は感じます。

日々、大変なことはありますが、自分たちのやっていることを振り返り、そこにやりがいを感じながら、利用者さん本位の支援を実践していきたいと思います。

第 105 号

2021 年 1 月 20 日発行

発行責任者 前田研介

社会福祉法人 なにわの里

〒582-0025 柏原市国分西 1-3-43HOPE ハウス 202

E-mail naniwa@naniwanosato.jp

HP <http://naniwanosato.jp>

Facebookでチェック 

右の QR コードから
かんたんアクセス！

